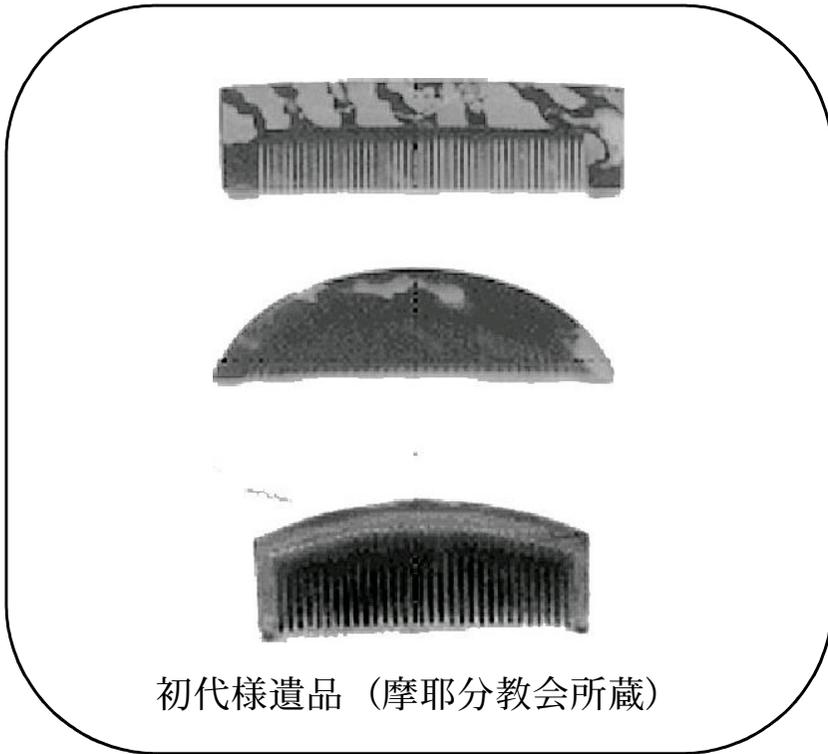


発行所  
天理教笠岡大教会

かさおか編集掛  
笠岡市用之江377  
郵便番号714-0066  
(0865)  
電話 66-1311  
FAX 66-1314

# かさおか



初代様遺品 (摩耶分教会所蔵)

をやの思いをにをいかけ、

<sup>うちうち</sup>内治に心を配り おたすけに誠の心を尽くそう

1. 一歩前進 百万軒
2. おつとめの徹底とひのきしん
3. 機を逃さず おさづけの取次

# 学生の集い

9月23日(祝)

8:30 大教会集合

9:00 大教会長様挨拶

◆ 昨今の学生層による事件が大変気になる。自分の意見だけを主張し、周りに合わせる事が出来ない結果だ。自分の都合を置いてでも、周りに合わせられる様に他人と交わらないと本当の自分を知る事は出来ない。学生会の行事を通して他人と交流を持ち、他人を知ることによって本当の自分を知り、助け合いの出来る自分になって頂きたい。そうする事によって現在世間で騒がれている様な事件を防ぐ事になる。

9:10 マイクロ乗車大教会出発

☆青年会(佐藤真孝).....車中

◆ 青年会活動へのお誘い

◆ ハートクリーンキャンペーンへの参加

◆ 別席のお誘い

◆ 日々起こってくる事情・身上は自分が成人させて頂ける絶好の機会である。同じように青

年会の活動も成人のチャンスであり逃さぬよう参加して頂き成長の糧として頂きたい。我々は人のお世話取りをすればするほど成人させて頂く事が出来る。

◆ 少年会サマーキャンプへのお誘い

☆女子青年

◆ 3つのかどめ

・ひのきしん・教会への参拝・にをいがけ

◆ 女子青年例会 第4日曜

◆ 来年度女子青年大会(教区単位)

◆ つぼみを読んで頂きたい。

◆ 女子青年活動紹介ビデオ上映

10:55 赤穂海浜公園到着

史料見学

塩作り

13:30 赤穂市内史料見学(車中より)

15:00 大教会到着解散

参加人員...学担II 4名、青年会II 1名、女子青年

II 1名、学生II 5名。

感想...少人数ながら大変充実した一日であっ

たと思う。学生達も大変喜んでくれ、

次回の開催に期待するとの声もあった

りなかつたり。

(学生担当委員 山野弘実)

## ◆婦人会 委員部長後継者講習会

【期 日】 11月23日(祝)

## ◆別席伏せ込みひのきしん団参

【期 日】 11月28日(日)

【内 容】 別席、基礎講座、伏せ込みひのきしん

## ◆大教会 年末大掃除

【日 時】 12月22日(水)午後9時より

## ◆詰所 餅搗ひのきしん

【日 時】 12月27日(月) 午前7時より  
前日より、準備ひのきしんがあります。



に笑いし、試合が進むに連れて熱戦が繰り広げられました。

最後の優勝チームが決まるまで、朝まで降っていた雨が蒸気に変わる如く、多くの方々が大会を盛り上げてくれたように思います。

大会の目標であった「親睦を深める」を大会参加者のみならず、うどん・焼きそば・やきとり・アイス等を振る舞ってくれた青年会が特にそれを暖めてくれたように思います。

閉会式には大教会長様の挨拶及び参加者全員への参加賞が渡され、大教会長賞・三位・準優勝・優勝とそれぞれ賞状・トロフィーと記念品が会長様より手渡されました。尚結果は表(前頁)の通りです。

恒例の行事として来年も開催致しますので是非こぞって参加して下さい。来年は出来るだけ行事の重ならない日程を選び、全ブロックの参加が出来るのを楽しみにしています。大会運営



## 実践項目集計 (8月)

百万軒にをいがけ	62,308軒
おさづけのお取次	4,417回
身上事情お願い	760件
提出教会	114ヶ所

委員会として、来年更に内容のあるもの出来るよう進めて参りたいと思います。  
最後に沢山の方々のご協力とご尽力によって第一回の大会が無事開催出来ましたことをこの紙面を借りて御礼申し上げます。  
ありがとうございました。  
(大会運営委員会代表  
上原志郎)

## 第764期修養科募集要項

### \*修養科期間

立教167年12月1日～立教168年2月27日

### \*教養掛

3ヶ月間	中島誠治	(大教会役員・鶴山分教会長)
1ヶ月目	渡邊真次	(品治分教会長)
2ヶ月目	中村義太郎	(大教会役員)
3ヶ月目	藤本芳久	(東水島分教会長)

### \*募集要項

- ・志願者は、12月末日現在で満17歳以上で、下表の必要書類を携え、上級教会を經由して大教会に順序参拝すること。
- ・11月25日までに笠岡詰所に入所し、教養掛の面接を受けること。
- ・3ヶ月の修養期間を終了後は、大教会での修養科修了講習会を受講し、2月29日の昼食後に解散。

# 談話室



## 信仰の喜び

神昭分教会 神予布教所長 渡部京子  
私は母の身上から、十二才頃に始めて神様のお話を聞かせていただきました。

中学三年生の秋、母は七人の子供を残し亡くなりました。母が亡き後は、弟妹の世話をしながら無事に卒業することが出来ました。

卒業後は、苦勞して私達を育て、下さった母への恩返しは、兄と力を合せ、四人の弟妹達を義務教育をさす事が母への恩返しと思い、一生懸命頑張って居りました。

私が二十五才の時、たんのうと言う身上をいただきました。病院に係って居りましたが、私は管が入らないのです。痩せて足をひこずるようにして、やっと歩ける状態でした。三回目の管も悪い所まで届か無いのです。辛くて二度と管を呑むことが出来ませんでした。

助からないのなら、行きたいと思っていた修養科に入って、おちばで死ぬるなら、本望と思ひ、

二四六期の修養科に入学させていただきました。身上で入学しましたが、夜は今川先生の肩をも

ませていただき、朝早く起き、お便所掃除をさせて頂きました。二年生の時、二四六期の一〇一組を代表して感話大会に出させて頂きました。本部での先生方のお話を聞いている時、何時も私の事を言ってお下さっているような気がしました。

三ヶ月の修養科生活中に色々と身上を見せていただき、その度、詰所主任山野先生から、お話を聞かせていただき、おさとしもして下さいました。神様にお詫びをしますと、すぐに御守護を下さるのです。何回もくり返す内、主任山野先生が、若井さん、これを良く見える所にはって、毎日見なさいと言って一枚の紙を下さいました。

「人が何ごと言おうとも、神が見ている氣をはずめ」と書いたお言葉をいただきました。そのお言葉が心に定り、心が救われた時、御守護をいただく事が出来ました。

その後、四国今治で結婚をし、息子三人・娘一人を授り、お道につながり信仰をし、現在は神昭分教会の神予布教所を預り、一生懸命つとめさせていただいて居ります。

平成十六年七月六日、仕事に行く途中で、八十三才のおばあさんを起して上げようと思った瞬間、私の骨が「ポキン」と音がしました。そのまゝ、救急車で病院に運ばれ、腰椎圧迫骨折と言われ、

一ヶ月ベットに寝たまゝで動く事が出来なかったので大変でした。

見舞に来て下さる方が皆んなゆっくりと休みなさいと神様がして下さったのだと言って下さいました。

一番嬉しかったのは、長男夫婦が毎日おさづけを取り次ぎに来てくれましたこと、おさづけを取り次いでくれます時、御守護を頂けるのを肌で感じました。嬉しかったです。

お陰さまで早く良くなり、八月十三日には退院をする事が出来、病院の先生も早く良くなったので、びっくりされ大変喜んで下さいました。

退院して、病院と違い、我家の不便さで少し困りましたが、半月が過ぎ、一日と良く成り、信じられないような御守護を見せて頂き、用木信者さま方にも、信仰の素晴らしさを、私の身上を通して感じ取っていただけました事と喜んで居ります。

神昭分教会の月次祭に四ヶ月ぶりに参拝させて頂きました。

十月の月次祭には大教会から会長様の御巡教で、教祖百二十年祭の時句のお話しをして下さいました。

神様から、私にもっと骨を折ってほしいとの思いから、身上に見せて頂きありがたいことと受け止めて居ります。

私の身上を通して感じましたことは、四人の子供は用木に成って居りますが、次男・三男は、今は前向きでは有りません。でも長男家族が皆んな、お道につながって居りますので、きつと長男がお道に引き寄せてくれますと信じて安心致しました。

長男夫婦は教会の上にも心を使ってくれますし、親がお道につながってくれていますので、娘の理奈は天理大学、息子剛太は天理高校で来春卒業です。二人共用木です、二人の孫はおぢばの理をいただき、毎日をおぢばで過せる事は幸せな孫達と喜んで居ります。二男の京介も今年の夏は、学生修養会に参加させて頂き大変良かったと喜んで居りました。来年もきつと参加したいと言ってくれました。

この度の身上を通して、これほど信仰の喜びを感じた事は有りません。信仰をして来て良かったと心から嬉しく思い感謝をした事はありません。

十一月二十八日、別席伏せ込みひのきしん団参に、初席者一人でもおぢばにお連れする事が出来ますこと嬉しく思います。

信仰って素晴らしい。明るい心、喜ぶ心、感謝する心の積み重ねが大切と教えて頂きました。嬉しい気持ちで一ぱいです。がんばります。誠にありがとうございます。

## こころの詩

▼呉市・東濱十三雄さん(福順分教会長)よりの寄稿です。  
病喜録のうた

秋風の通る音して 目覚めれば

蝉の音静か なごりおしんで

名月は荒び勝なる 闇の世を

どんな思いで 照らし給うや

ヒトの世は埃にかすんで見えたとして

人生それぞれ 美しいモノ

~~~~~  
ハッピー幸せ

~~~~~  
作詩 寺下宏一

一. MY HAPPY 幸せ

昼休みにまた、ドッチボールしような。  
もうすぐ5年生だもん。ゆうくんすき。

二. おはよう母さん、MY HAPPY 幸せ

塾から帰るとお手伝いするね。  
だいぶ英語を話せるもん

三. お父さん お疲れさん MY HAPPY 幸せ

明日の 日曜 キャッチボール お願いね  
僕、イチロー ファン。将来野球選手

四. THANK YOU おじさん。MY HAPPY 幸せ

私、スケートうまくなったでしょう  
また、回転寿司お願いね。

五. ありがとう神様 MY HAPPY 幸せ

私の耳大きいでしょう。とってもよく聞こえるのよ  
イヤリング2つでも大丈夫よ

## 大教会だより

● 辞令 ●

立教167年10月21日付

● 職制人事

布教部部員 山野弘実

● 教会指令 ●

● 任命願

清嶽 分教会

\*前任 岡田光夫

\*新任 田中幹夫

☆奉告祭 立教167年11月7日

立教167年9月26日承認

◎ 教会長資格検定講習会修了者

前期 立教167年10月14日終講

福昭 平盛 稚浪

福東 藤井 ひろえ

錦ヶ原 三宅 英子

◎ 本部保安室境内掛

自 立教167年10月1日

至 立教168年9月30日

亀田山 高橋 祐吉

## 九月月次祭祭文

これの笠岡大教会の神床にお鎮まり下さいます親神天理王命の御前に会長上原理一慎んで申し上げます

親神様には子供かわいい一条の親心の上から陽気ぐらしをさせようと思召され身体をお貸し下され自由をお与え下されると共に天然自然のお働きを通して生きる喜びと味わいを賜る事は誠に有難く存じます 特に今の季節は天高く馬肥ゆる秋とも言われ一年の内でも最も豊かな旬を迎えさせて頂いております事は誠に勿体ない極みでございます 私共は日々成って来る姿に思召を拝し朝夕に御礼申し上げつつ生かされている喜びと感謝の心を伝え一人でも多くの人に救かって貰いたいものにいがけ・おたすけの上に勤め励まして頂いております

その中にも今日の吉日はこれの笠岡の理にお許し下された月次の御祭日でございますので只今からおつとめ奉仕者一同喜び心も一入に明るく陽気に勇んで座りづとめてをどりをとめて九月の月次祭を執り行わせて頂きます 御前には今日の日を楽しみに寄り集いました道の子供達が相共にお歌を唱和し親心に御礼申し上げる状を御覧下さいまして親神様にもお勇み下さいますようお願い申し上げます

さて先日台風が相次いで中国地方を通り過ぎて行きました 被害を受けた方が出ました事は誠に残念でなりません戦争を繰り返す人間社会を御覧になつての親神様の残念立腹の大きさからすると大難を小難にとお連れ通り頂いて被害を最小限にして下さったように思います それだけに尚一層にいがけおたすけに励ませて頂きたいものにをいがけ強調月間にふさわしい実動をさせて頂いてまいりました 月末には全教一斉にをいがけデーも控えておりますのでより活発な動きにさせて頂く所存でございます

又来月は秋季大祭の月でございます 各直轄教会での大祭に参拝させて頂きお互いに立教の元一日に込められた親の思いを思案させて頂き改めて教祖年祭へ向けて成人の誓いも新たに三つの実践項目の実施はもとより年頭の心定め完遂目指しての歩みを推し進めて行く覚悟でございます

何卒親様には世界一列救けたいとの親心に応えるべくよふぼくとの自覚を高めたすけ一条に邁進する皆の真実誠の心をお受け取り下さいまして万たすけの上に親心溢れる自由の御守護を賜りまして未だ道知らぬ人々も一人でも多くこの道にお引き寄せ下さり教祖年祭にふさわしい心の成人の姿をお見せ頂きますようお導きの程を一同と共に慎んでお願い申し上げます

◎本部食堂ひのきしん

自 立教167年10月1日  
至 立教167年10月15日  
海松ヶ岡 宮崎 智司



去る九月二十五日午後三時頃、うっとりしい雨雲が久しぶりに晴れた少しむし暑い日だった。雲が切れた北の空に、巨大な地震雲が東西に一直線に走っていた。

昭和四十年代だったと思うが、奈良市に鍵田市長が居た。この人は地震雲の研究で有名だったが、当時は自然現象の異変―ナマズの行動その他の動植物の異変など、気象庁や学者は一切認めておらず鼻の先でセララ笑っていた時代である。私は鍵田

## 秋季 霊祭祭文

これの笠岡大教会の祖霊殿にお鎮まり下さいます本席様の御霊初代真柱様並びに奥様の御霊二代真柱様の御霊中山家御先祖の御霊大教会創設の祖上原佐吉大人八重刀自の御霊初代会長上原さと刀自の御霊二代会長上原伊助大人光刀自の御霊三代会長上原繁雄大人くに多刀自の御霊四代会長上原郁雄大人の御霊大教会草創の頃より歴代会長と共にご苦勞下さいました役員部内教会長教人よぶく信者の御霊諸々の御霊の前に会長上原理一慎んで申し上げます

祖霊様方には親神様教祖のお見定めとお引き寄せを頂かれ早くからこの世界たすけの道をお通り下さいました。しかしその道中は決して楽々の道ではありませんでした。いくら無い命助けて頂いた御恩報じだから又子や孫への徳積みだからと言っても衣食住に不自由するだけでなく世間からは蔑まされる等我身思案を捨てまさしく教祖ひながたをたどるがごとくお通り下さいました。今日のお道の結構な姿をお見せ頂きますのもひとえに親神様教祖の御守護お導きの賜であることは申すまでもありませんが又一つには御霊様のそうした真実の伏せ込みの賜でございます。私共も信仰の元一日を振り返りその思いに少しでも近づきたいものと朝夕に御礼申し上げつつ届かないながらも日々たすけ一条の御用の上に勤め励ませて頂いております

その中にも本日は秋の霊祭を執り行う定めの日柄でございますので御前に旬の草々の物を供え改めて御霊様方のお通り下さった道程をたずね御遺徳を称えたいものと参来集うゆかりある人々と共に只今はおつとめ奉仕者一同親神様の御前にて手おどりをつとめさせて頂き引き続き御霊様方の御前に参らせて頂きました。皆の真実の姿を御覧下さいまして祖霊様方にもお喜び下さればと存じます

さて今お道は教祖百二十年祭に向けて成人の歩みの道中でございますが三年千日と仕切つての中間点に当たり「地震大風水つき」を通して親神様から大変厳しいお仕込みを頂いております。もちろんこれは争い事を止める事の出来ない人間への残念立腹の姿ではありますが一方で成人が遅々として進まないよぶく一人一人への思いであるとも受け取れます。御霊様方がつけて下さったこの道を引き継ぐ私共よぶくはその御遺徳に恥じないようたすけ一条に邁進させて頂く覚悟でございます

何卒祖霊様方には皆の真実誠の心を御覧下さいまして教祖年祭にふさわしい成人が出来ますようお導きお力添えの程を一同と共に慎んでお願い申し上げます

市長の本を読んで面白いと思った。要約すると、その雲の先端から300K(500K先で、五日〜十日後に地震が発生するとういう。100%の確率ではないが比較的高いという。

私は四十数年前から野外活動をやってきたが、欠かせないのが観天望気である。故にたえず空を見上げる癖がある。これが実に面白い。空が雲が、月が木が、野鳥が虫達が語りかけてくれるからである。

そんなことからヒヨイと見上げた空に、地震雲を見たのである。地震が発生するしないはさておき、近年地球は狂ってきた。いや人間が狂わせたのだ。地球上各地の異変―天災、人災は目を覆うものがある。人間の傲慢もこゝまでくれば天の鉄槌が降りるのは当然であろう。

地震雲を目撃してから12日後の10月6日はたして地震が発生した。関東地方―茨城県南部、埼玉県南部に震度5弱が起きた。雲の位置から約650K先にあたる。地震雲と地震の因果関係、あなたは信じますか信じませんか。